『フォレスト・ガンプ/一期一会』から見るアメリカ社会

工　藤　菜々子

『フォレスト・ガンプ/一期一会』を知ることになったきっかけは、2学年の時に受講した「アメリカ文化論」のテーマがこの作品だったからである。私はアメリカに興味があったこともあり、アメリカの歴史を元に物語がすすめられていく作品に魅力を感じた。そして、この作品を通しこの物語のベースになっている1950年代から1980年代のアメリカ社会と、登場人物との関係を論じていく。

作品名になっている『フォレスト・ガンプ』という名前は、本作の主人公であるフォレスト・ガンプという人物だ。彼は生まれつき知能指数が70以下で人並みに至らなく、おまけに背骨が曲がっており矯正器具なしでは歩くことができない少年だった。そういうわけで、周りからは変わった少年として見られることが多々あった。しかし、彼の母親であるミセス・ガンプは彼に対して特別なことはせずに、普通の子どもと同じように女手一つで育て上げた。そんな彼が、約30年間の激動のアメリカを駆け抜けていく物語の主人公である。

本作は、50年代から80年代のアメリカ社会が物語のベースになっている。「史上最も成功したソロ・アーティスト」としてギネス・ワールド・レコーズに認定されている、キング・オブ・ロックンロールとして称されているエルヴィス・プレスリーが、物語の中で無名時代にフォレストの家で下宿しており、フォレストにダンスを教えている場面があったり、故ジョン・F・ケネディとフォレストがホワイトハウスにて面会する場面があったりする。時代はベトナム戦争に移り、出兵したフォレストはそこで出会った親友バッバを悲しいことに戦争で亡くしてしまうが、ダン中尉という一生の付き合いになるパートナーに出会う。アラバマ州の田舎で育ったうすのろフォレスト・ガンプは、一人の女性ジェニー・カランを愛し続けながら約30年間の激動のアメリカ社会を突き進んでいく。

そして、この作品は映像技術が素晴らしい。CG技術を使ってフォレストがまるで本当にケネディ大統領や、ジョン・レノンなどと一緒に会話しているような映像が、本作ではたくさん見られる。これは映画を見ないとわからないが、『フォレスト・ガンプ』がここまで有名になるには本作の見事な映像技術も人々が魅了されたからではないかと私は思う。

フォレスト・ガンプという作品は、アメリカ社会に翻弄されながらも素晴らしい人生を送ったフォレスト・ガンプという名の男の物語だ。たくさんの人に出会い、普通の人じゃ経験できないことをたくさんしてきたフォレスト・ガンプ。私がこの作品を通して得たことは、フォレストとジェニーの関係ついてである。そして彼ら自身でアメリカ社会を表しているのではないかと考えた。フォレストの人生は、次から次へと良いことばかりで誰もが羨むような人生を歩んでいる。一方でジェニーはというと、父親からの性虐待から始まり、ドラッグに溺れ自殺未遂まで図ろうとする。そして最後は、病気にかかり亡くなってしまう。私が彼らから思ったことは、フォレストはアメリカの是であり、ジェニーはアメリカの非をキャラクターから表現しているということだ。以上のことをふまえて本作を鑑賞すると、フォレスト・ガンプと彼に関わる人たちとアメリカ社会の両方を楽しめる作品であるということがわかるだろう。

（指導教員　中村敦志）